

# 資料 1

平成29年度 白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会

# 白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会 モニタリング現地調査報告（初年度）

## 1 目的

活動拠点となる180い5林小班の間伐は列状に5m伐採、10m残しで実行済。この伐採列の中に広葉樹侵入等に関するモニタリング調査箇所を3パターン設定し、設定方法による稚樹の発生状況に差があるかを検証。

## 2 現地概要

- ・場所：西目屋村鬼川辺国有林180い5林小班
- ・機能類型：森林空間利用タイプ
- ・林種：単層林 ・主要樹種：スギ ・林齢：50年生
- ・混交割合：100% ・面積：14.99ha ・伐採率：33%
- ・伐採年度：平成27年度間伐（列状）

## 3 調査方法

林地を列状に間伐し、その後の植生の生育状況などを調査することとし、次の3種類の調査箇所を設定。

A区域 搬出路に対して直角の伐採列

B区域 広葉樹の区域ぎりぎりまでの伐採列

C区域 日照を考慮して南北に設置した伐採列

これらの箇所に設定した植生プロットにおいて、発生状況等を確認。

A～C区域3種類のモニタリング調査の列1本に2箇所、隣の残し列に1箇所植生プロットを設定（4m×4m）。

※全部で3区域×3=9プロット。調査は樹種・高さを計測。

## 4 結果

A区域：伐採列を集材路に対し直角に設定。※通常の列状間伐の形態

- ・伐採面にオオカメノキ、クロモジ、リョウブといった低木類がみられるがあまり多くはない。高木層を構成する樹種はほとんど見られない。



- ・残し列にはオオカメノキ、クロモジ等低木類であるが多く見られ、高木類のハウノキ等も見られる。





B区域：伐採列を集材路に対し直角かつ広葉樹の区域に接するまで設定  
※広葉樹の区域から種子の飛来を期待

- ・伐採面にヒメアオキ、オオカメノキといった低木類が多く見られる。高木についてはハウノキが見られるが数は少ない。スギ稚樹が若干あり。



- ・残し列にはオオカメノキ、クロモジ等低木類みられるもののあまり多くはない。調査地のハウノキ稚樹は残し面からの天然更新である可能性。



C区域：伐採列を南北方向に設定※日照による稚樹の発生状況を確認

- ・伐採面にノイチゴ、オオカメノキ、リョウブ等の低木がみられ、天然更新が旺盛であるものの高木層を構成する樹種は少ない。スギの稚樹も見られる。高木類は少ない。



- ・残し列にはオオカメノキ、クロモジ、ヒメアオキといった低木類であるが多くみられ、高木類のハウノキ、ナナカマド等も見られる。



各区域(A~C)の植生状況 ※平成28年度調査時  
【各区域のプロットを合計して計上】

(A区域)

	調査年月日	樹種	平均(m)	本数(本)
1	H28.9.27	イタヤカデ	0.40	1
2	"	サクラ	0.72	8
3	"	ホオノキ	0.71	8
		計		17

(B区域)

	調査年月日	樹種	平均(m)	本数(本)
1	H28.11.1	イタヤカエデ	0.20	1
2	"	クワノキ	0.21	3
3	"	サクラ	1.48	1
4	"	ホオノキ	0.45	7
		計		12

(C区域)

	調査年月日	樹種	平均(m)	本数(本)
1	H28.9.28~H28.10.28	イタヤカエデ	0.14	2
2	"	サクラ	0.25	2
3	"	エノキ	0.10	1
4	"	カツラ	0.18	5
5	"	シウリザクラ	0.10	6
6	"	スギ	15.00	2
7	"	ハンノキ	0.18	1
8	"	ブナ	0.72	3
9	"	ホオノキ	0.44	5
10	"	ミズナラ	0.34	1
		計		28